

箱根の火山の実相とは？ -知っているようで知らないこと-

箱根の状況について 続編 その3

先日、温泉地学研究所の先生をお招きして開催した箱根の火山の勉強会から私自身がそうだったのか!と気付いたことがありました。お客様やメディアなど外の方々とのコミュニケーションに際しては、まずは地元の私たちが正確な情報とそれにもとづく正しい認識を持つことが重要です。その時に学んだことを素人の視点で私なりに3点にまとめてみました。参考になれば幸いです。

1.箱根の火山は後期高齢者

現在の噴火はマグマが噴き出すものではなく、マグマによって熱せられた水蒸気が噴き出す水蒸気噴火。(マグマは地下7~10KMあたりに溜まっている模様。)マグマを噴き上げるには大変なエネルギーが必要だが、箱根は年寄りの火山なので、その力は弱い。(が、絶対にマグマ噴火はないとは言えない。希だが十分あり得る。)

しかしながら、年寄り火山なので頻繁にマグマ噴火をするわけではないし、事前に予知できる可能性は高いので今すぐにでも起こるような恐がり方をする必要は無いであろう。

また、富士山のマグマとはつながっていないし、富士山に影響を与えるようなエネルギーはないので、箱根が活発になったから富士山がどうかというものではない。

2.警戒レベルとは距離で決まる?

警戒レベルの設定は、火山の(噴火の)程度や質によるものではなく、人の生活への影響度で決まる。箱根の場合は火山自体の程度は大したことはないが、居住地区に近いのでレベル3。桜島も同じレベル3だが、マグマ噴火しており、火山としてはより活発。

大きな騒ぎにならないのは皆その状況に慣れているから。箱根では車にうっすらと灰が降ったと言って大騒ぎになるが、鹿児島では灰が降って積るのは日常茶飯なのに地元の人には平然と暮らし、観光客も来ているのはそのせい。

3.海水浴に学べ

箱根は決して100%安全とは言えないが、海水浴と同じように考えてもらうようにしたい。海水浴は100%安全でないことは皆承知しながら遊びにきている。だから、箱根での観光も同様に捉えてくれるようなコミュニケーションを。

*小田原箱根商工会議所主催で2015年7月9日に開催された勉強会の講師、神奈川県立温泉地学研究所主任研究員 万年一剛氏のご了解の下、著者がまとめたものです。

さて、依然としてお客様が少ないが続きますが、大々的な誘客のキャンペーンが打ちに

くい状況の中、何とかお客様に来ていただきたいと動いています。先日は黒岩知事とご一緒させていただき、横浜にある各種経済団体の県の本部を廻り箱根を使っていただけるようお願いしてきました。来月の初めまでに県下 14 ある商工会議所に会頭さんをお訪ねしてお願いしてくるつもりです。8月7日には当会議所の主催でのゴルフコンペを開催し、県下、全国からも 50 名ほどご参加をいただきました。私にとっても数年ぶりのゴルフだったのですが、スコアはともかく、涼しく快適な箱根でのゴルフでありました。ご参加の皆さんもいつもどおりの箱根だったと異口同音でした。お帰りになったら周りの皆さんに是非伝えてくださいとお願いしました。ロコミ作戦です。どうか、皆さんも顔の見える関係のお知り合いにお願いしてください。夏の研修会でも会議でもゴルフコンペでもご家族旅行でも小員数でも何でも結構なので、是非、箱根を使ってくださいと。箱根に来てくださいと。

会頭 鈴木悌介